

中央大学学術講演会

考古学からみた

邪馬台国

弥生・古墳時代の

年代研究

講師 中央大学文学部教授 小林謙一

日時 10月16日(日) 午後3時
会場 国立南口・西友7階 ホール
主催 中央大学 入場無料
共催 中央大学学員会国立支部 (国立白門会)
後援 国立市教育委員会

お問い合わせ先

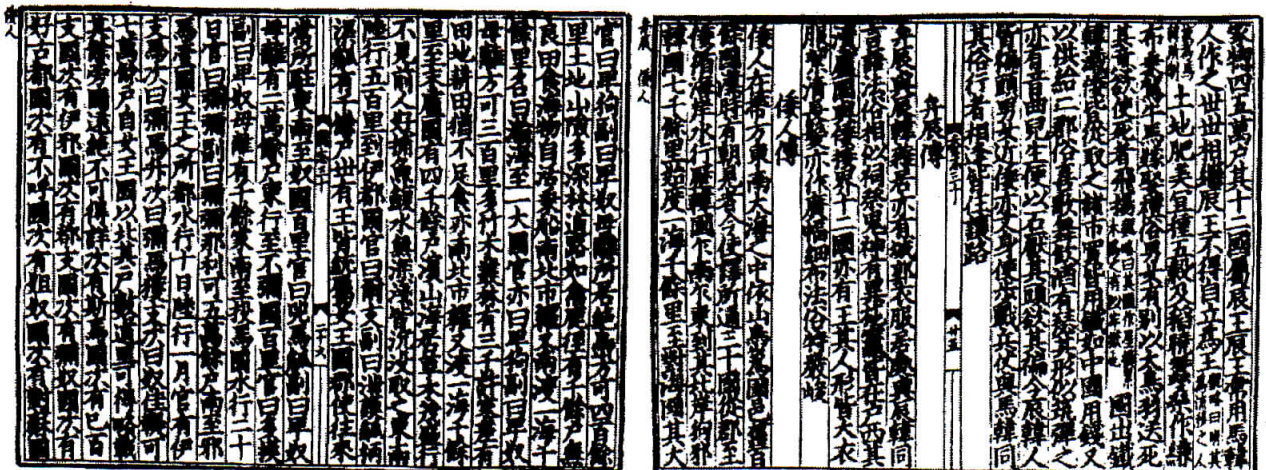
堀田 090-1766-3924

khakumon@yahoo.co.jp

邪馬台国論争

- 邪馬台国(やまたいこく/やまとこく)は、2~3世紀に日本列島に存在したとされる国(くに)のひとつである。中国の史書では、邪馬台国は卑弥呼が治める女王国であり、倭国連合の都があったとされている。邪馬台国の所在地が九州か近畿か、21世紀に入っても日本の歴史学者の説が分かれている。
- 『三国志』における「魏志倭人伝」(『三国志』魏書東夷伝倭人条)では、親魏倭王卑弥呼はこの国の女王であり、約30の国からなる倭国の都としてここに住居していたとしている。「魏志倭人伝」では「邪馬壹国」と表記されているが、『後漢書』には「邪馬臺国」とある。「邪馬台国」の通称は、「邪馬臺国」の"臺"の字を、"台"をもって代用したものである。また、耶馬台国とも記述される。弥生時代の1-3世紀に倭国にあったと推定されている。女王が治めていたことから魏志倭人伝では女王国とも記されている。
- (ウィキペディア「邪馬台国」より)

三国志魏書 第30卷 烏丸鮮卑東夷伝倭人条 (魏志倭人伝)
 作者 陳寿(ちんじゅ)(二三三~二九七年) 239年朝貢



魏の領土で朝鮮半島北部ないし中部に当時あった郡[帯方郡]から邪馬台国に至る道程
 対海国、一大国、末廬国、伊都国、奴国、不彌国、投馬国、邪馬台国
 南には男王卑弥呼が治める狗奴国があり女王国と不和で戦争状態にあった。
 租税や賦役の徴収が行われ、国々にはこれらを収める倉がつくられていた。また、市場が各地に開かれ、
 大倭という官がこれを監督していた。
 女王国より北の諸国には特に一大率という官が置かれ、諸国を監視し、伊都国で治めていた。魏の刺史の様な
 ものである。王が魏の都、帯方郡、韓の国々に使者を派遣するさいや、郡の使者が倭国に来たさいは、皆が港に
 臨んで伝送文書と贈物を披露し照合して女王に送っていたので間違いは起きない。

次有蘇奴國次有呼邑國次有華奴蘇奴國次有
 鬼國次有爲吾國次有鬼奴國次有邪馬國次有
 躬臣國次有巴利國次有支惟國次有烏奴國次
 有奴國此女王境界所盡其南有狗奴國男子爲
 王其官有狗古智卑狗不屬女王自郡至女王國
 萬二千餘里男子無大小皆黥面文身自古以來
 其使詣中國皆自稱大夫夏后少康之子封於會
 稽斷髮文身以避蛟龍之害今倭水人好沈沒捕
 魚蛤文身亦以厭大魚水禽後稍以爲飾諸國文
 身各異或左或右或大或小尊卑有差計其道里
 當在會稽東治之東其風俗不淫男子皆露髮以
 木絲招頭其衣橫幅但結束相連略無縫婦人被
 髮屈紒作衣如單被穿其中夾貫頭衣之種木綿
 紵麻葛布縹緗出細紵練其地無羊馬虎豹羊
 鷓兵用矛楯木弓木弓短下長上竹箭或鐵鐵或
 骨鏃所有無輿僮耳朱崖同係地溫暖冬夏食生
 菜皆徒跣有屋室父母兄弟則息異處以朱丹塗
 其身體如中國用粉也食飲用盞巨手食其死有
 棺無槨封土作冢始死停喪十餘日當時不食肉
 喪主哭泣他人就歌舞飲酒已葬舉家詣水中漂

「皆黥面文身」というように男子はみな顔や体に入れ墨し、墨や朱や丹を塗っている。
 男子は冠をつけず、髪を結って髻をつくっている。女子はざんばら髪。潜水して貝などを採る。
 その風俗は淫らではない。男子は皆髻を露わにし、木綿で招頭。その衣は幅広い布を結び合わせているだけである。
 婦人は髪に被り物をし屈紒である、衣は單被のように作られ、中央に孔をあけ、貫頭衣である。
 牛・馬・虎・豹・羊・鷓はいない。兵器は矛・盾・木弓を用いる。土地は温暖で、冬夏も生野菜を食べている。
 人が死ぬと10日あまり、哭泣して、もがり(喪)につき肉を食さない。他の人々は飲酒して歌舞する。埋葬が終わると
 水に入って体を清める。墓には棺はあるが槨はない。

浴以如練沐其行來渡海詣中國恒使一人不梳
 頭不去髮衣履垢污不食肉不近婦人如惡人
 名之爲持衰若行首喜其類其生口財物若有
 疾病遺棄皆便殺之謂其持衰不謹出真珠青
 玉其山有丹其木不有榊梓檉檉檉檉檉檉檉檉
 香其竹條幹桃支有榊檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉
 有榊檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉檉
 卜以占吉凶先告所卜其辭如金龜法視火垢占
 兆其會同坐起父子男女無別人性嗜酒其俗不
 知正刑四節但計見大人所敬但搏手以當禮拜其
 人壽考或百年或八九十年其俗國大人皆四五
 婦下戶或二三婦婦人不淫不妬忌不盜竊少詐
 貪其犯法輕者沒其妻子重者沒其門戶及宗族
 尊卑各有差序足相臣服後無有隸屬國有市
 交易有懸仗大儀監之自全國以礼特置一大
 率檢威諸國長淫之常治伊都國外國中有知利
 史王遣使詣京獻幣方都諸國及都使傳國皆
 臨津樓閣傳法文書賜遺之物詔女王不得差錯
 下戶與大人相逢道路遠近入堂傳辭或事或禮
 或跪兩手據地爲之恭對來會曰索比如然諾

倭の者が船で海を渡る時は持衰(じさい)が選ばれる。持衰は人と接せず、風は取らず、
 服は汚れ放題、肉は食わずに船の帰りを待つ。船が無事に帰ってくれば褒美が与えられる。船に災難があれば殺される。
 特別なことをするときは骨を焼き、割れ目を見て吉凶を占う。
 身分の高い者は4、5人の妻を持ち、身分の低い者でも2、3人の妻を持つものがある。

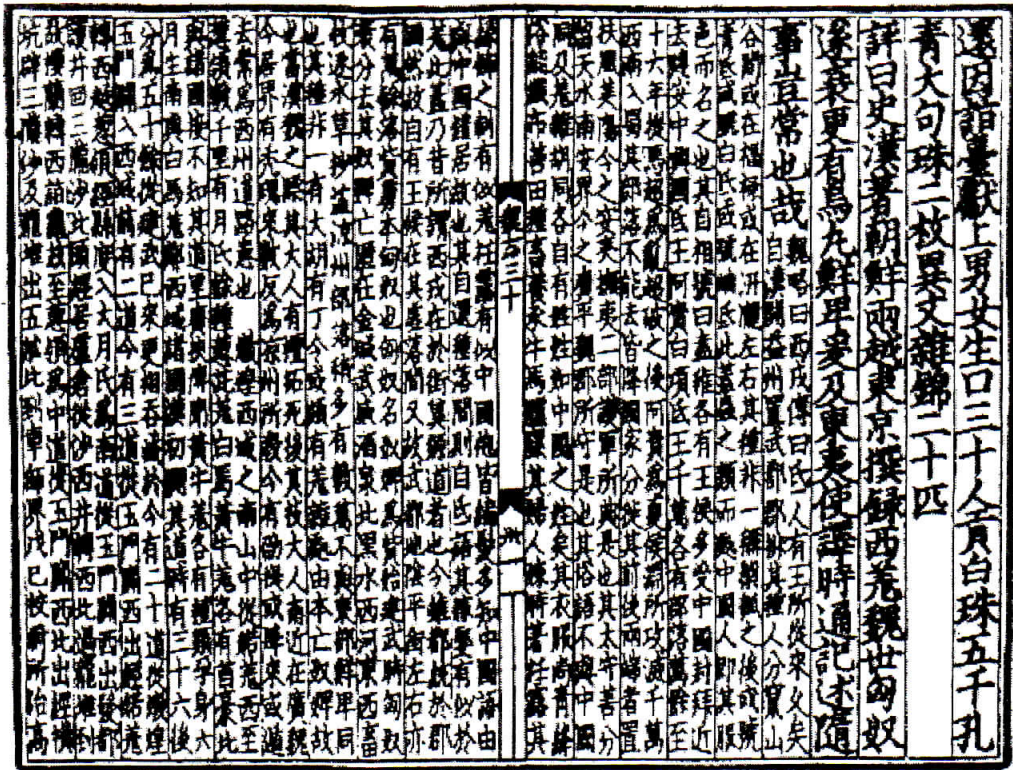
其國本亦以男子為王住七八十年倭國亂相攻
 伐歷年乃共立一女子為王名曰卑彌呼事鬼道
 能戰衆年已長大無夫婿有男弟佐治國自為王
 以來少有見者以婢千人自侍唯有男子一人給
 飲食傳辭出入居處宮室樓觀游櫺嚴設有有人
 持兵守衛女王國東渡海千餘里便有國皆倭種
 又有倭國在其南人長三四尺去女王四千餘
 里又有倭國黑齒國在其東南船行一年可至
 矣問倭地絕在海中洲島之上或絕或連周旋可
 五千餘里景初二年六月倭女王遣大夫難升米
 等詣郡求詣天子朝獻太守劉夏遣吏將法詣京
 都其年十二月詔書報倭女王曰制詔親魏倭王
 卑彌呼帶方太守劉夏遣使送汝大夫難升米次
 使寄市牛利奉汝所獻男生口四人女生口六人
 與布二匹二丈以到汝所在踰遠乃遣使貢獻是
 汝之忠孝朕甚哀汝今以汝為親魏倭王假金印
 紫綬裝封付帶方太守懷德汝其檢撫種人勉為
 孝順汝來使難升米牛利涉遠道路勤勞今以難
 升米為奉善中郎將牛利為奉善校尉假銀印青
 綬引見勞賜遣還今以緣地交龍錦五匹臣州之
 為地

倭国には元々は男王が置かれていたが、国家成立から70-80年を経たころ、漢の靈帝の光和年間には政情不安が起き、歴年におよぶ戦乱の後、女子を共立し王とした。その女王が卑弥呼である。この戦乱は、中国の史書に書かれたいわゆる「倭国大乱」と考えられている。

女王は鬼道(後述)によって人心を掌握し、既に高齢で夫は持たず、弟が国の支配を補佐した。卑弥呼は1,000人の侍女に囲われ宮室や楼観で起居し、巡らされた城や柵、多数の兵士に守られていた。王位に就いて以来、人と会うことはなく、一人の男子が飲食の世話や取次ぎをしていた。

應為倭國文帝著早女類之七類是也緣地綿粟麴十
 張積絳五十四紺青五十四蒼淡所獻真直又特
 賜汝紺地白文錦三匹細班華扇五張白絹五十
 匹金八兩五尺刀二口銅鏡百枚真珠鈿丹各五
 十斤皆裝封付難升米牛利還到錄受悉可以示
 汝國中人使知國家哀汝故鄭重賜汝好物也正
 始元年太守劉夏遣建中校尉持節等奉詔書印
 綬詣倭國拜假倭王并齋詔賜金紫錦劍刀鏡采
 物倭王因使上表各謝詔恩其四年倭王復遣使
 大夫伊羅老羅等八人上獻生口倭錦絳青
 練絲衣帛布丹木附短弓矢掖邪狗等青拜奉善
 中郎將印綬其六年詔賜倭難升米書遣付郡假
 授其八年太守王顯到官倭女王卑彌呼與狗奴
 國男王卑彌弓呼素不和遣使獻斯烏越等詣郡
 說相攻擊狀遣塞曹掾史張政等因齋詔書黃纁
 拜假難升米為檄告喻之卑彌呼以死大作家徑
 百餘步徇墓著奴婢百餘人更立男王國中不服
 更相誅殺當特殺子餘人復立卑彌呼宗女直與
 年十三為王國中遂定政等以檄告向直與直與
 遣倭大夫奉善中郎將掖邪狗等二十人送政等

女王は景初二年(3年の誤記か(239年))以降、帯方郡を通じ数度にわたって魏に使者を送り、皇帝から親魏倭王に任じられた。
 正始8年(248年)には、狗奴国との紛争に際し、帯方郡から塞曹掾史張政が派遣されている。



卑弥呼が死去すると大きな墳墓がつくられ、100人が殉葬された。その後、男王が立てられたが、人々はこれに服さず内乱となり1,000人が死んだ。そのため、卑弥呼の親族で13歳の少女だった壹與(臺與)が王に立てられた。先に倭国に派遣された張政は檄文をもって壹與を諭しており、壹與もまた魏に使者を送っている。

邪馬台国所在地論争

- 論争が始まったのは江戸時代後期である。新井白石が「古史通或問」において大和国説を説き、「外国之事調書」では筑後国山門郡説を説いた。
- 国学者の本居宣長は「日本こそが中国(中心たる国)であるべきであり、日本の天皇が中国に朝貢した歴史などあってはならない」という立場から、「馭戎概言」において九州熊襲説を提唱した。大和朝廷とはまったく別王国を想定し、筑紫(九州)にあった小国で卑弥呼とは神功皇后の名を騙った熊襲の王とする。
- 江戸時代から現在まで学界の主流は「畿内説」(内藤湖南ら)と「九州説」(白鳥庫吉ら)で別に、邪馬台国が九州から畿内へ移動してヤマト政権となったとする「東遷説」がある。
- 「連続説」(連続読み) - 「魏志倭人伝」に記述されている順序に従って方角を90度読み替えたり距離を修正しながら比定していく読み方で、帯方郡を出発後、狗邪韓国・対海国・一大国を経て北部九州に上陸し、末廬国・伊都国・奴国・不弥国・投馬国・邪馬台国までを順にたどる。この読み方だと畿内説。
- 「放射説」(放射読み) - 榎一雄の説。伊都国までは連続読みと同じだが、その先は距離を修正しながら伊都国から奴国、伊都国から不弥国、伊都国から投馬国、伊都国から邪馬台国というふうに、伊都国を起点にする読み方。多くは九州説。

考古学からみた邪馬台国

- 邪馬台国(2世紀から3世紀)は、弥生時代末期～古墳時代初頭に相当する。
- 三国志の記述と考古学的事実の整合性について検討する必要がある。
- 卑弥呼の墓 大形の弥生墳丘墓または最古の前方後円墳と考えられる。
- 魏からもらった鏡については、三角縁神獸鏡が考えられてきたが、矛盾が多く不明。
- 墳墓や宮殿跡?等の存在から近畿(纏向)が有力だが、絹・鉄の出土量から九州説も。

風俗の記述

- 男子はみな顔や体に入墨を施している。人々は朱や丹を体に塗っている。
- 籩豆(たかつき)を用い、手で食べる。(箸を使用していない)
- 男子は冠をつけず、髪を結って髻をつくっている。女子はざんばら髪。
- 潜水して漁をおこなう。
- 着物は幅広い布を横で結び合わせているだけである。
- 兵器は矛、盾、木弓を用いる。その木弓は下が短く上が長い。
- 土地は温暖で、冬夏も生野菜を食べている。
- 人が死ぬと10日あまり哭泣して、もがり(喪)につき肉を食さない。他の人々は飲酒して歌舞する。埋葬が終わると水に入って体を清める。墓には棺はあるが槨はない。土を盛って塚をつくる。
- 倭の者が船で海を渡る際、持衰が選ばれる。持衰は人と接さず、風を取らず、服は汚れ放題、肉は食べずに船の帰りを待つ。船が無事に帰ってくれば褒美が与えられる。船に災難があれば殺される。
- 特別なことをする時は骨を焼き、割れ目を見て吉凶を占う。(太占)
- 長命で、百歳や九十、八十歳の者もいる。
- 法を犯した場合、軽い者は妻子を没収し、重い者は一族を根絶やしにする。

最古の古墳

- ① 定型化した前方後円墳または前方後方墳
撥形に開く前方部, 前方部長:後円径 \approx 1:1
竪穴式石室, 割竹形木棺, 宮山型特殊器台・都月型埴輪
- ② 四神四獣鏡を中心とし三神三獣鏡を含まない三角縁神獣鏡の一群を副葬
- ③ 奈良県箸墓古墳(280m), 兵庫県西求女塚古墳(約100m), 兵庫県権現山51号墳(43m), 滋賀県雪野山古墳(70m)など
- ④ 青龍三年(235年), 景初三年(239年), 景初四年(240年), 正始元年(240年) 銘をもつ鏡の存在から3世紀中頃が古墳出現年代の上限

魏志倭人伝関係参考文献

新訂 魏志倭人伝・後漢書倭伝・宋書倭国伝・隋書倭国伝
—— 中国正史日本伝1 ——
石原 道博 編訳
岩波文庫 青401-1 体裁=文庫判 定価(本体 540円 + 税) 1985年5月16日
ISBN4-00-334011-6

岩波書店
魏志倭人伝の考古学
佐原 真
体裁=A6. 並製・カバー・408頁 重版中
2003年7月16日
ISBN4-00-600106-1 C0121

吉川弘文館,
魏志倭人伝を読む 2000年
佐伯有清

